

2024年1月8日(月)

キリスト兄弟団近畿教区新年聖会

午後 テモテⅡ2章1—2節、マタイ28章18—20節

「強くされ福音宣教に生きる幸い」

テモテⅡ2:1 ですから、私の子よ、キリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい。

2:2 多くの証人たちの前で私から聞いたことを、ほかの人にも教える力のある信頼できる人たちに委ねなさい。

Q:次の二つの違いは何でしょうか？

『あなたはこれまでに、何人の人々を救いに導いてきましたか？』

Q:次の二つの違いは何でしょうか？

『あなたはこれまでに、何人の人々を救いに導いてきましたか？』

『あなたはこれまでに、何人の「キリストの弟子」を育ててきましたか？』

マタイ28:18-20 イエスは近づいて来て彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るようになさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

パウロがテモテに語っていること…

『イエスさまの弟子を育てる弟子を、
育てなさい』

1) イエスさまの弟子の特徴

2) 育てるために大切なこと

3) 自分自身の成熟のための取り組み

1) イエスさまの弟子の特徴



この動物の名前は？







クマスチャン



☆イエスさまの弟子ではない人たち(クマ
スチャン)の特徴

教会の建物の中にいるときだけ、「クリス
チャン」の自覚がある

☆イエスさまの弟子ではない人たち(クマ スチャン)の特徴

教会の建物の中にいるときだけ、「クリス
チャン」の自覚がある

礼拝の説教を上から目線で批評する

☆イエスさまの弟子ではない人たち(クマ スチャン)の特徴

教会の建物の中にいるときだけ、「クリス
チャン」の自覚がある

礼拝の説教を上から目線で批評する

隣人を愛そうとせず、その救いを願って
祈るということもない

☆イエスさまの弟子ではない人たち(クマ スチャン)の特徴

教会の建物の中にいるときだけ、「クリス
チャン」の自覚がある

礼拝の説教を上から目線で批評する

隣人を愛そうとせず、その救いを願って
祈るということもない

心の中は他人を裁く思いでいっぱい・・・



1) イエスさまの弟子の特徴

たましいを追い求める



1) イエスさまの弟子の特徴

たましいを追い求める

みことばを思いめぐらし、祈り、主と交わることを愛する



1) イエスさまの弟子の特徴

たましいを追い求める

みことばを思いめぐらし、祈り、主と交わることを愛する

イエスさまの弟子を育てる弟子を、
育てようとしている

2)育てるために大切なこと

①『聴く』

相手の心を聴く

聞きながら、次に何を話そうかと考えてしまう私

人の気持ちがわからない、共感できない私

ヤコブ 1:19「…人はだれでも、聞くのに早く、語るのに遅く、怒るのに遅くありなさい。」

共感しつつ聴いてもらって癒された…

②『聞く』(質問を投げかける)

良い質問をすることによって、相手に「主の御心を思いめぐらすことを促す

必死に教えようとしていた私

良い質問で気付かされた体験から、方向転換

③一緒にイエスさまに聞く(祈る)

教えたり指示したりするよりも、「イエスさまに聞いてみて・・・」と祈りを促し、共に祈ってイエスさまに聞くようにする

1) イエスさまの弟子の特徴

2) 育てるために大切なこと

3) 自分自身の成熟のための取り組み

①メンターの存在

リーダーシップ・リニューアルで

J. ロバート・クリントン博士

「聖書と欧米の牧師を見ると、フィニッシュウェルする牧師は三人に一人だ」と。

①メンターの存在

リーダーシップ・リニューアルで

J. ロバート・クリントン博士

「聖書と欧米の牧師を見ると、フィニッシュウェルする牧師は三人に一人だ」と。

障害は ・金銭 ・傲慢(間違ったプライド)

・権力 ・セックス ・家族(優先順位の中で
家族をおろそかにした結果)

・霊的停滞(横ばい現象)

そのなかで、フィニッシュウェルすることができる人と、そうでできない人の違いをもたらすものは何かが語られた。

それは・・・

そのなかで、フィニッシュユエルすることができる人と、そうでできない人の違いをもたらすものは何かが語られた。

それは・・・

「メンターがいるかいないか」

②安全な関係での分かち合い

裁かない！

教えな
い！

一人で話
しすぎな
い！

秘密厳
守！





今日のまとめとして…

「あふれる恵みに気付かされる幸い」

「強くされ福音宣教に生きる幸い」

その幸いの中に生かされている人…



☆メイベル・・・

私の友人の友人を皆さんに紹介します。彼女の名前はメイベルといいます。友人のトム・シュミットは、このように分かち合ってくれました。

州立の療養所は、あまり気持ちの良い場所ではない。広くて、従業員が足りなくて、死を待っているだけの、もうろくして無力で孤独な人たちで溢れかえっている。外がどんなに良いお天気の日も、中は薄暗く、病と尿の臭いがする。

私はそこに、四年間、週に一、二度通っていた。でも、行くのが嫌だった。そこを去るときは、いつもほっとした。何度行っても、とても慣れることなどできないような場所だった。あるとき、それまで行ったことのない階の廊下を歩きながら、私は、花と励ましの言葉を受け取る気力のありそうな人はいないかと探していた。

その階にいたのは、無気力な表情で車いすやカートに乗っている人ばかりで、どうやら特に悪い状態の人たちを収容している階のようだった。廊下のつきあたりに近づいたところに、車いすの老婦人がいた。彼女は見るからに恐ろしい顔をしており、白濁した瞳とうつろな目線から、視力を失っていることが分かった。片方の耳に装着された大きな補聴器から、耳もほとんど聴こえないことが分かった。顔の半分はガンによって冒され、頬には大きなただれがあった。

そのせいで、鼻は押されて曲がり、片目は垂れ下がり、顎も歪んでいた。そして本来なら口角であるはずの部分が、口の下にきていた。そのため、よだれが流れ続けていた。・・・この女性はもう過去25年間に渡り、ベッドに横たわったまま、盲目で、ほとんど聴覚もなく、ひとりぼっちで、ずっとその病院にいるのだそう。この女性がメイベルである。

なぜ彼女に話しかけたのか、自分でも分からない。とても返事ができそうには見えなかったのだ。でも、私は彼女の手には花を一輪握らせ、こう言った。「母の日おめでとう。花をどうぞ」。メイベルはその花を自分の目の前に近づけ、匂いをかごうとした。そして、しゃべったのだ。顔の歪みのせいで言葉は聴き取りにくかったものの、驚いたことに彼女の意識は明らかにしっかりしていた。

彼女の言葉はこうだった。「ありがとう。とても素敵ね。でも、ほかの人にあげてもいいかしら。私は盲目なので、見ることができないの」。

私は、「もちろんです」と答えた。そして、ほかの意識のはっきりしている人がいそうなところへ、彼女の車いすを押しに行った。そしてそのような人を見つけたので、そこで車いすを止めると、メイベルは花を差し出して言った。「さあどうぞ。イエスさまからのプレゼントですよ」。

そのときだ。私はこの女性はただ者ではない、と気づいた。それから、メイベルを部屋まで連れて帰り、彼女のこれまでの人生について話しを聞いた。メイベルは母親と二人でやっていた小さな農場で育ち、母親が亡くなってからは、一人でそこを切り盛りしていたそう。しかし一九五〇年に病気になって視力を失ってからは、ずっと療養所暮らしだった。

二五年間の中に、メイベルはどんどん衰弱し、病気も進行し、絶えず頭痛や腰痛、腹痛に悩まされていた。そしてしまいにはガンになった。同室のほかの三人は皆、植物人間状態で、時折叫び声をあげる以外には、口をきくことはなかった。同室の人たちはしばしばシーツを汚したが、この病院は人員不足で、特に、私がいつも訪れる日曜日はスタッフの目が行き届いておらず、その悪臭はいても立ってもいられないほどだった。

私とメイベルは、数週間のうちにすっかり仲良しになった。そして、その後三年間、私は週に二度はメイベルを訪問するようになった。私がやって来ると、彼女はいつも、真っ先に、「キャンディーはいかが？」とベッド脇にあるティッシュの箱に入っているキャンディーを勧めてくれた。

あるときは、私はメイベルのために聖書の朗読をした。するとメイベルは、その続きを一語一句違わずに、暗唱してくれることがよくあった。

また別のときには、賛美歌集を開いて、二人で一緒に歌った。メイベルは、古い賛美歌の歌詞を全部暗記していた。義務的に聖書の御言葉や賛美歌の歌詞を暗記しているのではなかった。賛美歌の途中で歌うのを止め、自分の状況に特に関連のある歌詞について、短くコメントをすることがよくあった。孤独だとか苦しいとかいったことをメイベルが言うのを、私は聞いたことがなかった。

あるとすれば、賛美歌の中に出てきた歌詞について言及するときだけだった。最初は励まそうと思って訪問していたのだが、むしろ彼女に魅せられて訪問するようになるのに、そう時間はかからなかった。そのうちメイベルに会いに行くときには、彼女の言葉を書き留めるためにペンとノートを持参するようになった。

あるとき、期末試験でてんてこ舞いになり、なすべきことや考えるべきことがたくさんありすぎて、私は心がバラバラになりそうになっていた。すると、こんな思いが湧いた。「メイベルはいつも何を考えているのだろう。毎時間、毎日、毎週……しかも、昼か夜かも分からないまままで！」そこで私は彼女のベッドに近寄り、尋ねた。「メイベル、いつも何を考えながらここに横たわっているの？」

「イエスさまのことを考えているのよ」。

私はそこに座ったまま、私だったら五分だってイエスさまのことを考え続けるなんてできないのに、と思った。そこで、「イエスさまについて、何を考えるんだい?」と聞いてみた。メイベルは、ゆっくりと、考えながら、こう言った。

「イエスさまがこれまで、どれだけ私に良くしてくださっていたかを考えるの。」

だって、本当に、ずっと良くしてくださったのよ。私はそんなに多くを持たなくてもいいの。簡単に満足できてしまいう人間だから。ほとんどの人は、私が何を考えているかなんて、たいして気に留めないし、私のことを時代遅れだと思っているけど、別にかまわないの。イエスさまがいてくださればそれでいい。イエスさまが私のすべてなの」。

そして、メイベルは古い賛美歌を歌い始めた。

「イエスこそわがすべて
わが命、わが喜び、わがすべて
日々のわが力
イエスなしでは私は倒れてしまう
悲しいときはイエスのもとへ
イエスほど私を元気づけてくれる方
はいない
悲しいときは喜ばせてくれる
イエスはわが友」

これは、作り話ではない。信じられないかもしれないが、本当にこのように生きている人がいたのだ。嘘ではない。彼女は私の知り合いだ。いったいどうして、こんなふうに生きることができたのか？ 誰も寄り添ってくれる人がいないままに、なぜこんなことが起こっているのか、何の説明もないままに、ただ時間だけが刻一刻と過ぎていく。

そうやって、何日も、何週間も、
何ヶ月も、何年も、ただ痛みの中で
時が過ぎていく。そんなメイベルな
のに、彼女はそこに横たわり、賛美
歌を歌うのだ。どうしてそんなふう
に生きることができたのか？

思うに、メイベルは、私やあなたが
ほとんど持っていないものを持って
いたのではないだろうか。

・・・この女性は、並外れたことを
行うために、超自然的な力を受け
取った、ごく普通の人でした。彼
女は、自分の状況でなし得る限りを
尽くしてイエスに従うことに、自分
の全人生を注いでいました。苦しみ
をじっと耐え忍ぶこと、孤独、祈り、
みことばの瞑想、礼拝、可能なとき
は他者と交わりを持つこと、花や
キャンディーなど、他者に差し出す
ことのできるものがあれば、喜んで
与えること.....。

もしあなたがメイベルの状況にいるとしたらどうでしょう。「イエスさまがこれまで、どれだけ私に良くしてくださっていたかを考えるの。だって、本当に、ずっと良くしてくださったのよ。私はそんなに多くを持たなくてもいいの。簡単に満足できてしまう人間だから」と言っているところが想像できますか。これこそ、詩篇23篇「主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません。」の体現です。

テモテⅡ2:1 ですから、私の子よ、キリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい。

2:2 多くの証人たちの前で私から聞いたことを、ほかの人にも教える力のある信頼できる人たちに委ねなさい。